（聞取り記録 1）生活介護事業所ほほえみ職員　太田雅子さん聞き取り記録

金子勇治さんは、知的障害と自閉スペクトラム症がある利用者さんで、いらいらすると、指の皮を剥いたりして、常にバンドエイドを必要とする人なのですが、興奮して暴れるということはなかったんです。
金子さんは、急な予定変更が苦手なのですが、サービス管理責任者の山田隆司さんは、金子さんの日中活動の予定を急に変えたりして、金子さんのことをイライラさせてしまうんです。そうなると、山田さんは、金子さんに「お母さんに言うよ」って言うんです。金子さんは、お母さんに言われたくないので、「お母さんに言わないで、言わないで」って繰り返して。
そのうち山田さんが近づいただけで、イライラしてきて、ゴミ箱を投げたり、テーブルクロスを破いたりするようになったんです。
それで、その行為がひどいときは、山田さんが金子さんの背中から腕を回して羽交い絞めにして止めていたんです。
2 ヶ月前のときは、金子さんの暴れ方がすごくて、太田さんが金子さんを床に倒して馬乗りになって押さえつけました。その時は、金子さんが「ごめんなさい、ごめんなさい、もうしません、もうしません。お母さんに言わないで」と言って、泣きだして。
太田さんは、「こうすれば、金子さんが暴れても止められるんだよ」と言っていました。
でも、サービス管理責任者の山田さんの手前、支援記録にそのことは書けませんでした。
その場面は、私の他に職員の佐藤広美さんも見ていました。
管理者の川村さんに報告しましたが、「山田さんは、金子さんが暴れるのを止めたんだから、危険防止のためでしょう。しかたないよね」と言っていました。
金子さんは、現在も通所しているが、時々興奮することがあります。